

歴史・人類学サブプログラム

専門基礎科目(歴人)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
0ABA270	歴史・人類学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラム前期1年次生を対象とする春学期の基礎演習。大学院生として必要な先行研究の整理、基本的な史料やデータの利用・収集・解説・解釈・分析の手法を学ぶ。領域ごとに教員・大学院生の全員が出席し研究テーマに即した研究報告について討論する。基礎的な研究方法を身に付けつつ、修士論文作成に着手するための指導を受ける。	詳細後日周知
0ABA271	歴史・人類学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラム前期1年次生を対象とする秋学期の基礎演習。先行研究との議論、史料やデータの利用・収集・解説・解釈・分析の手法を深めるため、領域ごとに教員・大学院生の全員が出席し受講生がそれぞれの研究テーマに即した研究報告を行い、討論する。修士論文作成に向けて問題点の整理と解決のための具体的な指導を受ける。	詳細後日周知
0ABA272	歴史・人類学基礎演習IIA	2	2.0	2	春AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラムの前期2年次生を対象とする春学期の演習。領域ごとに教員・大学院生の全員が出席し、先行研究との議論、史料やデータの解説・分析の結果をふまえて、受講生による修士論文の構想についての具体的な研究発表を行い、研究水準の深化と向上を目指し討論する。	詳細後日周知
0ABA273	歴史・人類学基礎演習IIB	2	2.0	2	秋AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラムの前期2年次生を対象とする秋学期の演習。領域ごとに教員・大学院生の全員が出席し、自らの研究を理論化して提示する能力を養い、既存の先行研究との議論・論点の提示・論旨の展開・研究のオリジナリティ・結論のまとめ方についての討論をふまえた総括的な指導を受けて、修士論文を完成させる。	詳細後日周知

専門科目(歴人共通)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
0ABACP0	修士論文演習A	2	1.0	2	春AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が、自己の所属するサブプログラム・専門領域のみならず他学術院・他研究群・他学位プログラム・他サブプログラム・他専門領域の教員も加えて随時に研究指導を受けながら、資料の収集およびその具体的な考察の方法を検討しつつ、修士論文の構想を深めていく。	
0ABACP1	修士論文演習B	2	1.0	2	秋AB	応談	歴史・人類学サブプログラム教員	歴史・人類学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が、自己の所属するサブプログラム・専門領域のみならず他学術院・他研究群・他学位プログラム・他サブプログラム・他専門領域の教員も加えて随時に研究指導を受けながら、論文の構成および具体的な執筆方法を検討し、最終的な修士論文の完成を目指す。	

専門科目(歴史学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
0ABACA0	日本史特講IA	1	1.0	1・2				古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の成立過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民・国土支配にかかわる戸令・田令・賦役令の条文を読み進めていく。	西暦奇数年度開講。 02DC299と同一。 対面
0ABACA1	日本史特講IB	1	1.0	1・2				古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の展開過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民・国土支配にかかわる戸令・田令・賦役令の条文を読み進めていく。	西暦奇数年度開講。 02DC300と同一。 対面
0ABACA2	日本史特講IIA	1	1.0	1・2	春AB	月4,5	山澤 学	本特講では、宗教と社会を研究対象とした地域史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。また、文献史料を読解する能力の向上にも努める。具体的には、つくば市域の地方文書を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている史料を読解し、地域史研究における基礎的知識と研究方法を講ずる。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 02DC301と同一。 隔週開講 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACA3	日本史特講IIB	1	1.0	1・2	秋AB	月4,5	山澤 学	本特講では、宗教と社会を研究対象とした地域史研究における視点を検討し、深める。文献史料を読解する能力の向上に努めつつ、論文作成に向けての視点を考察する。具体的には、つくば地域の地方文書を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている史料の写真版を読解し、地方史研究における知識・研究方法を講じつつ、論文作成に向けての視点を検討する。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 02DC302と同一。 隔週開講 対面
OABACA4	日本史特講IIIA	1	1.0	1・2				日本近代思想史について講義する。主として日記史料を扱う。	西暦奇数年度開講。 02DC303と同一。 対面
OABACA5	日本史特講IIIB	1	1.0	1・2				日本近代思想史について講義する。日記史料から歴史像を描き出す。	西暦奇数年度開講。 02DC304と同一。 対面
OABACA6	日本史特講IVA	1	1.0	1・2	春AB	木3,4	朴 宣美	近代日本における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。社会文化史・ジェンダー史を考察する視点の習得を目標とする。	西暦偶数年度開講。 02DC305と同一。 隔週開講 対面
OABACA7	日本史特講IVB	1	1.0	1・2	秋AB	木3,4	朴 宣美	朝鮮における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。特に近代日本との比較を行い、近現代東アジアにおける社会文化史・ジェンダー史を考察する比較の視点の習得を目標とする。	西暦偶数年度開講。 02DC306と同一。 隔週開講 対面
OABACA8	日本史特講VA	1	1.0	1・2	春AB	火5	田中 友香理	明治～昭和期の原史料を読解しつつ、日本史学の基礎領域である史料学について、とくに私文書に着目し、独自の領域を確立することを目指す。	西暦偶数年度開講。 02DC307と同一。 対面
OABACA9	日本史特講VB	1	1.0	1・2	秋AB	火5	田中 友香理	明治～昭和期の原史料を読解しつつ、日本史学の基礎領域である史料学について、とくに私文書に着目し、独自の領域を確立することを目指し、秋学期はその実践に重点を置く。	西暦偶数年度開講。 02DC308と同一。 対面
OABACB0	日本史演習IA	2	1.0	1・2	春AB	火3	三谷 芳幸	古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令95家条(家の相互検査や人の移動の把握)以降の各条を読解し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 02DC309と同一。 対面
OABACB1	日本史演習IB	2	1.0	1・2	秋AB	火3	三谷 芳幸	古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令11給侍条(子孫・近親による高齢者介護)以降の各条を読解し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 02DC310と同一。 対面
OABACB2	日本史演習IIA	2	1.0	1・2				本演習では、史料を講読しつつ、宗教と社会を研究対象とした地域史研究における基礎的知識と読解・研究方法を修得する。具体的には、先行研究の検討をふまえ、つくば域に伝来した地方文書(写真版)を読解し、地域史研究における基礎的知識と研究方法を検討していく。履修者には史料読解に基づく報告も求める。なお、テキストは講義時に配付する。	西暦奇数年度開講。 02DC311と同一。 隔週開講 対面
OABACB3	日本史演習IIB	2	1.0	1・2				本演習では、近世史料を講読し、宗教と社会を研究対象とした地域史研究における基礎的知識と研究方法を修得しつつ、論文作成能力を錬成する。具体的には、先行研究の検討をふまえ、つくば域に伝来した地方文書(写真版)を読解し、地域史研究における基礎的知識を学びつつ研究方法を検討し、論文作成に向けての視点を考察する。	西暦奇数年度開講。 02DC312と同一。 隔週開講 対面
OABACB4	日本史演習IIIA	2	1.0	1・2	春AB	火2		日本近代思想史の課題と方法について、史料の発掘・整理とその解釈をふまえて検討する。	西暦偶数年度開講。 02DC313と同一。 対面 2026年度開講せず。 2028年度以後偶数年度開講予定。02DC313と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACB5	日本史演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火2		日本近代思想史の課題と方法について、史料の整理と検索手段の作成をふまえて検討する。	西暦偶数年度開講。 02DC314と同一。 対面 2026年度開講せず。 2028年度以後偶数年度開講予定。 02DC314と同一。
OABACB6	日本史演習IVA	2	1.0	1・2				近代日本における「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。日本の研究を中心に引き上げつつ、ほかのアジアにおける研究との比較を行う。このテーマに対する研究史的考察ができることを目標とする。	西暦奇数年度開講。 02DC315と同一。 隔週開講 対面
OABACB7	日本史演習IVB	2	1.0	1・2				近代東アジアにおける「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。韓国を中心に、日本における先行研究との比較を視野に入れながら、先行研究の問題意識や論点、研究史的な位置づけなどを明らかにすることを目標とする。	西暦奇数年度開講。 02DC316と同一。 隔週開講 対面
OABACB8	日本史基礎実習	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	朴 宣美, 長尾 宗典, 三谷 芳幸, 山澤 学, 田中 友香理	日本史研究の基礎的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行う。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、具体的な調査地を設定し、事前に調査地および日本史学研究者として身につけるべき調査の技能を学んだ上で、集中形式で調査地におけるフィールドワークを実施していく。これらを通じて、研究倫理をふまえ、協同して行う史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察等の技術を修得する。	西暦偶数年度開講。 02DC317と同一。 対面
OABACB9	日本史研究法実習	3	2.0	1・2				日本史学研究の専門的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行い、日本史学研究の専門的素養である実証調査の方法と問題点を検討する。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、事前に調査地に関する学修およびその成果の報告を行った後に、集中形式で調査地におけるフィールドワークを協同して行う。その上で、史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察など、専門的調査における方法・問題点を考察し、研究倫理を含む日本史学研究者として必要な姿勢を体得していく。	西暦奇数年度開講。 02DC318と同一。 対面
OABACC0	日本史特講VIA	1	1.0	1・2				海外における研究動向や、資料保存機関の動向も踏まえながら、近代日本のメディア史研究の現在の成果について講じる。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACC1	日本史特講VIB	1	1.0	1・2				海外における研究動向や、資料保存機関の動向も踏まえながら、近代日本のメディア史研究の今後の展望について講じる。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACC2	日本史演習VA	2	1.0	1・2				日本近代思想史について講義する。主として書簡史料を扱う。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACC3	日本史演習VB	2	1.0	1・2				日本近代思想史について講義する。書簡史料から歴史像を描き出す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACC4	日本史演習VIA	2	1.0	1・2	春AB	木2	長尾 宗典	近代日本の検閲制度の形成に関わる諸問題について、受講者とともに関連文献の輪読を通して検討する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACC5	日本史演習VIB	2	1.0	1・2	秋AB	木2	長尾 宗典	近代日本の検閲制度の運用と強化に関わる諸問題について、受講者とともに関連文献の輪読を通して検討する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACD2	東洋社会文化史IIA	2	1.0	1・2				清朝初期のモンゴル関係に関する檔案史料や先行研究を履修者とともに講読し、当時の周辺情勢を踏まえながら、清朝のモンゴル政策やモンゴル社会の動向について理解を深める。あわせて、清朝統治や両者関係について議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACD3	東洋社会文化史IIB	2	1.0	1・2				17世紀から18世紀のハルハをはじめとするモンゴル諸集団と清朝との関係に関する檔案史料や先行研究を履修者とともに講読し、当時の周辺情勢を踏まえながら、清朝のモンゴル政策やモンゴル社会の動向について理解を深める。あわせて、清朝統治や両者関係について議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACD4	東洋政治経済史IA	2	1.0	1・2	春AB	火3	山本 真	1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に政治史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦偶数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACD5	東洋政治経済史IB	2	1.0	1・2	秋AB	火3	山本 真	清朝末期から1945年の満洲国崩壊までの瀋陽(奉天)の清朝皇室財産管理史を軸に講義を展開する。前半は、清室動産(文化財)保全の場としての博物館を取り上げ、その設立・運営に関与した人物の清朝皇室財産保全思想を析出する。後半は、清室不動産=皇産の保全をめぐる問題を検討する。あわせて、講義内で提示された史料の解釈について議論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACD6	東洋政治経済史IIA	2	1.0	1・2				1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACD7	東洋政治経済史IIB	2	1.0	1・2				1~2年次生を対象とする。中国の現代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACD8	東洋史史料研究IA	2	1.0	1・2	春AB	金5	上田 裕之	清代雍正年間から乾隆20年までの銭法について解説した上で、当該時期の銭法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACD9	東洋史史料研究IB	2	1.0	1・2	秋AB	金5	上田 裕之	清代雍正年間から乾隆20年までの銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACE0	東洋史史料研究IIA	2	1.0	1・2				清代乾隆21~60年の銭法について解説した上で、当該時期の銭法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACE1	東洋史史料研究IIB	2	1.0	1・2				清代乾隆21~60年の銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACE2	東洋民族社会史IA	2	1.0	1・2	春AB	木2	岩田 啓介	17世紀後半から18世紀前半にかけて清朝とモンゴル・チベットの有力者との間で取り交わされた文書を収録する『清内閣蒙古堂檔』所収の満洲語の檔案を受講生全員で講読する。また、特に18世紀前半に清朝がモンゴルへの統治を拡大する中で、清朝のモンゴル政策が、現地社会の動向とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACE3	東洋民族社会史IB	2	1.0	1・2	秋AB	木2	岩田 啓介	清朝の康熙年間(1661-1722)における奏摺を収録する『康熙朝満文硃批奏摺』から、特に18世紀初頭のチベット政策に関する満洲語の奏摺を受講生全員で講読する。そして、18世紀前半に清朝がチベットへの影響力を拡大する中で、清朝のチベット政策がいかにして策定され、それがダライ=ラマ政権の対外政策とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACE4	東洋民族社会史IIA	2	1.0	1・2				18世紀前半に清朝とモンゴル・チベットの有力者との間で取り交わされた『清内閣蒙古堂檔』所収の満洲語の檔案、ならびに『宮中檔雍正朝奏摺』所収の満洲語の奏摺から、清朝とモンゴル・チベットの境界地帯に関する史料を受講生全員で講読する。そして、18世紀前半に清朝が内陸アジアへと拡大する中で、境界地帯の社会における政治的動向が清朝の政策とどのように関連していたのかを議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACE5	東洋民族社会史IIB	2	1.0	1・2				『軍機処満文準噶爾使者檔訳編』『清代軍機処満文熬茶檔』所収の満洲語史料を講読し、18世紀前半における内陸アジア情勢の動向と清朝のモンゴル政策、チベット政策の関連について議論する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF0	古代西アジア史研究特講IA	2	1.0	1・2				古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献学的に正確に読み、その内容について考察する。この授業では特にシュメルとバビロニアの碑文を講読する。	西暦奇数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACF1	古代西アジア史研究特講IB	2	1.0	1・2				古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献的に正確に読み、その内容について考察する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF2	古代西アジア史研究特講IIA	2	1.0	1・2				シュメル語初級文法の概要を学ぶ。紀元前22～20世紀(グデア王朝時代・ウル第三王朝時代・イシン王朝時代)におけるいわゆる「古典シュメル語」の特性に焦点を絞り、文法概要の説明と練習問題の実施を交互させながら、音韻論、正字法、名詞句、動詞語幹と名詞形、格、代名詞、定動詞の活用、動詞と名詞の関わり方、法性・否定・接続の順番で学習する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF3	古代西アジア史研究特講IIB	2	1.0	1・2				シュメル語の読解能力を習得するとともに、紀元前三千年紀の楔形文字書体を学習し、原史料の読解に基づく古代西アジア史研究についての理解を深める。ウル第三王朝期の碑文、グデア王朝期の碑文、ウル第三王朝期の法文書の中から、言語の習得に適切な平易なサンプルを選び、講読する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF4	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IA	2	1.0	1・2				第2次世界大戦前のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF5	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IB	2	1.0	1・2				第2次世界大戦後のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF6	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIA	2	1.0	1・2				20世紀前半のアメリカ史に関する英語文献を読み、人種・エスニシティ、ジェンダー、階級をめぐる諸問題を検討する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF7	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIB	2	1.0	1・2				20世紀後半のアメリカ史に関する英語論文を読み、人種・エスニシティ、ジェンダー、階級をめぐる諸問題を検討する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF8	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIIA	2	1.0	1・2				ヨーロッパ史研究に関連する外国語文献を複数読み込み、歴史研究の方法を習得することを目指す。必要に応じて受講生には発表を課す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACF9	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIIB	2	1.0	1・2				ヨーロッパ史研究に関連する外国語文献を複数読み込み、歴史研究の方法を習得することを目指す。必要に応じて受講生には発表を課す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACG0	古代西アジア史演習IA	2	1.0	1・2	春AB	応談	山本 孟	楔形文字文書史料に基づき、古代ヒッタイト研究について討論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG1	古代西アジア史演習IB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	山本 孟	楔形文字文書史料に基づき、古代ヒッタイト研究について討論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG2	古代西アジア史演習IIA	2	1.0	1・2	春AB	応談	柴田 大輔	楔形文字文書を講読し、古代メソポタミア史に関する諸問題について検討する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG3	古代西アジア史演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	柴田 大輔	古代メソポタミアの文書を楔形文字原文から講読し、関連する諸問題について討論する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG4	ヨーロッパ・アメリカ史演習IA	2	1.0	1・2	春AB	火4	津田 博司	イギリス本国を主な対象としてイギリス帝国の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG5	ヨーロッパ・アメリカ史演習IB	2	1.0	1・2	秋AB	火4	津田 博司	イギリス植民地を主な対象としてイギリス帝国の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG6	ヨーロッパ・アメリカ史演習IIA	2	1.0	1・2	春AB	応談	佐藤 千登勢	アメリカ合衆国の移民史(19世紀末から20世紀半ばまで)に関する文献を講読する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG7	ヨーロッパ・アメリカ史演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	佐藤 千登勢	アメリカ合衆国の移民史(20世紀後半)に関する文献を講読する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG8	ヨーロッパ・アメリカ史演習IIIA	2	1.0	1・2	春AB	応談	村上 宏昭	ヨーロッパ史研究に関連する文献・テーマを紹介しながら、歴史学研究の基礎的方法論を習得することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACG9	ヨーロッパ・アメリカ史演習IIIB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	村上 宏昭	ヨーロッパ史研究における一次史料を紹介しながら、歴史学研究の史料読解のノウハウを習得することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACH0	歴史地理学特講A	1	1.0	1・2	春AB	火3	清水 克志	地方文書や古地図、地形図類などを素材として取り上げ、その検討を通して、歴史地理学の史料解析法や調査法を修得することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 02DC562と同一。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACH1	歴史地理学特講B	1	1.0	1・2	秋AB	火3	清水 克志	近年の英語圏における歴史地理学の研究動向について、英文のテキストを参照しながら、理解することを目的とする。取り上げるテーマは、歴史学と地理学の関係、土地と景観の歴史、人口と移動、国家と領域、環境と自然、歴史GIS、GeoAIなどである。	西暦偶数年度開講。 02DC563と同一。 対面
OABACH2	歴史地理学演習A	2	1.0	1・2				英語論文の講読を通して、海外における歴史地理学の研究動向についての理解を深める。	西暦奇数年度開講。 02DC564と同一。 対面
OABACH3	歴史地理学演習B	2	1.0	1・2				日本の農山漁村の歴史地理学的諸問題に関して、従来の研究の到達点について理解し、今後の研究課題を見出す能力を身に付けるとともに、様々な史料の活用方法を身に付けることが目的である。	西暦奇数年度開講。 02DC565と同一。 対面
OABACH4	歴史地理学実習IA	3	2.0	1・2	春C夏季休業中	応談	清水 克志	歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。特定地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を实地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	西暦偶数年度開講。 02DC566と同一。 対面
OABACH5	歴史地理学実習IB	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	清水 克志	歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習IAにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	西暦偶数年度開講。 02DC567と同一。 対面
OABACH6	歴史地理学実習IIA	3	2.0	1・2				歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。歴史地理学実習IAとは異なる地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を实地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	西暦奇数年度開講。 02DC568と同一。 対面
OABACH7	歴史地理学実習IIB	3	2.0	1・2				歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習IIAにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	西暦奇数年度開講。 02DC569と同一。 対面
OABACQ0	エジプト学研究特講A	2	1.0	1・2				古代エジプトにおける埋葬習慣および来世観の変遷について、考古資料・図像資料・文字史料を複合的に考察し、課題と展望を理解する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACQ1	エジプト学研究特講B	2	1.0	1・2				エジプト考古学および古代エジプト史のさまざまな課題について受講生の専門に応じて論文および研究書を批判的に精読し、議論を行う。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACQ2	エジプト学演習A	2	1.0	1・2	春AB	応談	河合 望	古代エジプト史の諸課題についての原書講読、研究発表、討議を行う。	西暦偶数年度開講。 オンライン(対面併用型)
OABACQ3	エジプト学演習B	2	1.0	1・2	秋AB	応談	河合 望	エジプト考古学の諸課題についての原書講読、研究発表、討議を行う。	西暦偶数年度開講。 オンライン(対面併用型)

専門科目(人類学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACJ0	先史学・考古学研究IA	2	1.0	1・2	春AB	月5	前田 修	考古遺跡出土の動物遺存体には過去の人々の食に関する事柄以上の情報が残されている。本授業は複雑社会における動物利用の事例を扱ったテキストの講読を通じ、都市遺跡出土の動物遺存体研究が有する意義への理解を深めることを目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACJ1	先史学・考古学研究IB	2	1.0	1・2	秋AB	月5	板橋 悠	先史学・考古学の調査に求められる探査や測量、記録の手法を習得し、実践することを目的とする。受講者は各回のテーマとなる手法について理論と機構について学習し、次に実際の手法や装置を用いた実習をおこなう。つづいて、その実践の過程と成果について全体で討議をおこない、それぞれの手法への理解と習熟を深めていく。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACJ2	先史学・考古学研究IIA	2	1.0	1・2				人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。狩猟採集社会とそれを取り巻く自然環境について多面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。受講者が担当する文献を選び、その内容について発表した後、討議をおこない、それぞれのテーマに関する理解を深めていく。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACJ3	先史学・考古学研究IIB	2	1.0	1・2				人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。初期農耕社会とそれを取り巻く自然環境について多面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。受講者が担当する文献を選び、その内容について発表した後、討議をおこない、それぞれのテーマに関する理解を深めていく。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACJ4	先史学・考古学研究IIIA	2	1.0	1・2	春AB	木5	滝沢 誠	古墳時代は日本列島中央部における国家形成期と位置づけられ、各地域社会を横断する汎列島規模での重層的な政治構造が成立した時期と考えられる。この授業では、古墳の存在形態をめぐる従来の議論を批判的に検討しながら、古墳時代における政治構造の変遷とその特質について専門的知識を深めることを目標とする。毎回の授業では、古墳の存在形態をめぐるこれまでの議論とその問題点について、受講生1名が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の政治構造を多角的かつ通時的に考察する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACJ5	先史学・考古学研究IIIB	2	1.0	1・2	秋AB	木5	滝沢 誠	弥生時代から古墳時代にかけての社会変化を理解するにあたり、前方後円墳に代表される古墳がどのような経緯で成立したのかを明らかにすることは、きわめて重要な課題である。この授業では、各地に認められる弥生墳丘墓の実態を把握したうえで、古墳出現の歴史的意義について理解を深める。授業の前半で弥生墳丘墓の実態把握を進め、授業の後半で縦向型前方後円墳と東日本の前方後方墳について検討する。毎回の授業では、個別のテーマについて1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳出現の歴史的意義を考察する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACJ6	先史学・考古学研究IVA	2	1.0	1・2				弥生時代には、拠点集落を中核とした地域社会の構造が典型的に認められるが、古墳時代になると、一般の集落から独立したかたちで首長居館が成立し、一般の集落は散在化する。この授業では、主に関東地方の事例分析にもとづきながら、古墳時代における地域社会の特質について理解を深める。古墳時代の居住域、墓域、生産域などにかかわる個別のテーマについて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代における地域社会の構造的特質について考察する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACJ7	先史学・考古学研究IVB	2	1.0	1・2				古墳時代の考古資料には、近畿地方の政治勢力とのかかわりを示すものとは別に、特定の地域にのみ分布する考古資料も少なからず存在する。この授業では、そうした地域的偏在性を示す考古資料を取り上げて、古墳時代の地域色とその背景について理解を深める。地域的偏在性を示す古墳時代資料のうち、東海地方と関東地方の事例を取り上げて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の地域色について考察する。	西暦奇数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACJ8	先史学・考古学研究VA	2	1.0	1・2	春AB	金3	谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古科学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに産地推定に関する最新の学術論文を選択する。論文中に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACJ9	先史学・考古学研究VB	2	1.0	1・2	秋AB	金3	谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古科学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに年代測定に関する最新の学術論文を選択する。論文中に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACKO	先史学・考古学研究VIA	2	1.0	1・2				先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古科学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目する。とくに材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。選択した論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACK1	先史学・考古学研究VIB	2	1.0	1・2				先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古科学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域を設定する。とくに機器分析を用いた材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。それらの論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACK2	先史学・考古学基礎実習	3	4.0	1・2	秋B	集中	滝沢 誠, 前田 修, 板橋 悠, 谷口 陽子	発掘調査や測量調査などのフィールドワークに参加し、基本的な作業を修得することを目標とする。あわせて、フィールドワークに参加している学群生を指導し、調査指導者として必要な基礎的能力を養うことを目標とする。	対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACK3	先史学・考古学研究 VIIIA	2	1.0	1・2	春AB	火5	前田 修	考古学におけるジェンダーの研究をテーマとし、過去の社会におけるジェンダーの問題に注目することで、過去の社会へアプローチするための理論と方法論を学ぶ。社会学や文化人類学の研究も参照しながら、ジェンダー研究の研究史と最新の研究動向を理解する。履修生は、分担して日本語および英語の文献を講読し批評する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACK4	先史学・考古学研究 VIIIB	2	1.0	1・2	秋AB	火5	前田 修	考古学におけるジェンダーの研究をテーマとし、国内外の研究事例を取り上げ、ジェンダーと社会の関係について、考古学においてどのような研究がおこなわれているかを学ぶ。履修生は、分担して日本語および英語の文献を講読し批評する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACK5	先史学・考古学研究 VIIIA	2	1.0	1・2				考古学研究における民族誌の利用をテーマとし、民族考古学の文献を講読することを通して、民族誌を利用した考古学研究の方法論と研究事例について学ぶ。日本語および英語の文献を選択して講読し、各回の授業で1名の受講生が文献のレビューを中心とした口頭発表をおこなう。それをもとに討論することで、民族考古学の理解を深める。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACK6	先史学・考古学研究 VIIIB	2	1.0	1・2				実験考古学をテーマとし、先行研究の文献を講読することを通して、実験考古学の方法論と研究事例について学ぶ。日本語および英語の文献を選択して講読し、各回の授業で1名の受講生が文献のレビューを中心とした口頭発表をおこなう。それをもとに全員で討論することで、実験考古学の理解を深める。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACK7	先史学・考古学研究 IXA	1	1.0	1・2	春ABC	集中	前田 修	非常勤講師による、考古学に関する授業をおこなう。授業内容は、決定次第manaba等において周知する。	対面(オンライン併用型)
OABACK8	先史学・考古学研究 IXB	1	1.0	1・2	秋ABC	集中	前田 修	非常勤講師による、考古学に関する授業をおこなう。授業内容は、決定次第manaba等において周知する。	対面(オンライン併用型)
OABACL0	民俗学特講IA	1	1.0	1・2				民俗学における信仰伝承研究に関わる先端的な研究動向を主に歴史民俗学的研究の立場から把握する。受講者それぞれの関心に応じた問題を析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る能力を高める。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACL1	民俗学特講IB	1	1.0	1・2				民俗学における先端的な研究動向にかかわる課題を把握し、参加者による議論を踏まえた上で、民俗学および関連分野の方法論に基づく分析を行い得る能力を高める。	西暦奇数年度開講。 対面
OABACL2	民俗学特講IIA	1	1.0	1・2				本講義では、主として日本の「漁業」の民俗を対象に、民俗学初期の古典的研究から精読を行い、輪読形式で、その枠組みと方法を批判的に検討しながら、民俗学的視点と方法を展望する。	西暦奇数年度開講。 隔週開講 対面
OABACL3	民俗学特講IIB	1	1.0	1・2				本講義では、「漁業」をとりまくサブシステムの動態を対象に、領域横断的な研究例の検討を行う。日本に事例を主として、日本以外の例をも参照し、今日の「漁業」研究の視点と方法について展望することを目的とする。	西暦奇数年度開講。 隔週開講 対面
OABACL4	民俗学特講IIIA	1	1.0	1・2	春AB	金2	武井 基晃	東アジアの民俗社会において、人々は神々といかに交渉し対話しているか、信仰対象の背景にいかなる記憶や文脈があるのかについて考える。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACL5	民俗学特講IIIB	1	1.0	1・2	秋AB	金2	武井 基晃	家族という研究対象について、変容、暮らし、ジェンダー、教育、労働、福祉、死、グローバルなど様々な方向からのアプローチを検討し、理解する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACL6	民俗学演習IA	2	1.0	1・2	春AB	木2	渡部 圭一	民俗学における信仰伝承研究を踏まえ、民俗学ならびに関連分野の論文を講読し、受講者それぞれの研究関心からの検討を加える。民俗学における信仰伝承研究に関わる基本的な学史を主に歴史民俗学的研究の立場から把握し、問題を析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る能力を高める。	西暦偶数年度開講。 対面
OABACL7	民俗学演習IB	2	1.0	1・2	秋AB	木2	渡部 圭一	主に歴史民俗学的視点に関わる民俗学研究ならびに、歴史学・文化人類学・社会学・宗教学など関連領域の研究から文献を選び、講読し、批判的に検討する事により、参加者各々が歴史民俗学的研究に関する知見を深め、方法論の検討を行う。	西暦偶数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACL8	民俗学演習IIA	2	1.0	1・2	春AB	火5,6	中野 泰	柳田国男、宮本常一、桜田勝徳を取り上げ、高度経済成長期以前における民俗誌的試みを、フィールドワークやフィールドノートも含めて対象化し、民俗(族)誌の意義と可能性について検討する。	西暦偶数年度開講。 隔週開講 対面
OABACL9	民俗学演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火5,6	中野 泰	占領期、高度経済成長期に現れた民俗(族)誌、及び、1990年代以降、近年の試みとして、領域横断的、あるいは、実験的な試みを、民俗学、社会学、人類学等から取り上げ(英語文献を含む)、民俗学的フィールドワークに基づく民俗(族)誌の意義と可能性について検討することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 隔週開講 対面
OABACM0	民俗学演習IIIA	2	1.0	1・2				戦後台湾の民俗誌・実例をふまえ家族という研究対象について様々な方向から理解し、民俗学における民俗誌の分析を検討する。	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABACM1	民俗学演習IIIB	2	1.0	1・2				戦前から戦中の日本統治下における台湾の社会と民俗・信仰について、当時の資料・民俗誌を講読することで理解する。特に、地域社会と人々の信仰のあり方に直結した寺廟整理に着目し、この政策がどのように始まり、地域社会にいかにか受容され、具体的にどのような手続きがなされたのかについて、当事者の生の記録を通して読み解く。これに関連して同時期の台湾において日本人・台湾人を交えた台湾の民俗の調査・研究の機運の高まりとその成果についても取り扱う。	西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABACM2	文化人類学特講IA	1	1.0	1・2	春AB	火4	中村 友香, 佐本英規, 木村 周平	この授業では、文化人類学的な研究を進める上での基礎として、文化人類学における諸理論や諸研究手法について、仔細に検討し、議論する。取り上げるものは機能主義や構造主義、解釈人類学など、文化人類学における中心的なアプローチである。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM3	文化人類学特講IB	1	1.0	1・2	秋AB	火4	佐本 英規, 中村友香, 木村 周平	この授業では、文化人類学的な研究を進める上での基礎として、文化人類学における諸理論や諸研究手法について、仔細に検討し、議論する。取り上げるものは科学技術論や存在論的転回など、文化人類学において近年現れてきたアプローチである。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM4	文化人類学特講IIA	1	1.0	1・2				現代の文化人類学の課題や方法論について学ぶ。授業では、著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、それに対して自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM5	文化人類学特講IIB	1	1.0	1・2				現代の文化人類学の課題や理論的な動向について学ぶ。特に近年の研究群に焦点を当て、その分野の独自性や方向性の形成に大きな影響を及ぼした著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、その可能性と限界、および自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM6	文化人類学演習IA	2	1.0	1・2				現代的な文化人類学の特定のテーマの民族誌的著作を取り上げて読解し、議論することを通して、文化人類学のアプローチについて理解を深め、自らのものとする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM7	文化人類学演習IB	2	1.0	1・2				現代的な文化人類学の特定のテーマの民族誌的著作を取り上げて読解し、議論することを通して、その分野の知識に加え、文化人類学の調査・分析・記述方法について理解を深め、自らのものとする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACM8	文化人類学演習IIA	2	1.0	1・2	春AB	木3	木村 周平, 佐本英規, 中村 友香	文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方とアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に古典的なテーマに焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABACM9	文化人類学演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	木3	木村 周平, 佐本英規, 中村 友香	文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方とアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に現代的なテーマに焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABACN0	民俗学・文化人類学実習A	3	2.0	1	春C	応談	木村 周平, 中野泰, 武井 基晃, 佐本 英規, 中村 友香, 渡部 圭一	1年次生を対象として、フィールドワークの方法論を実践的に学ぶ。フィールドワークの深め方と総合化等、今後の民俗学研究・文化人類学研究の基礎となる研究法を訓練する。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、研究テーマについての発表に基づき、参加者による討論を行う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習をコーディネートする。	02DC76Cと同一。 対面(オンライン併用型)
OABACN1	民俗学・文化人類学実習B	3	2.0	1	秋C	応談	木村 周平, 中野泰, 武井 基晃, 佐本 英規, 中村 友香, 渡部 圭一	1年次生を対象として、修士論文に向けたフィールドワークの実践的遂行能力を養う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習のコーディネートを継続し、実習前に予備調査を行う。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、1週間程度のフィールドワークを行い、フィールドワークで得られた資料を基について報告書を作成する。	02DC76Dと同一。 対面(オンライン併用型)